



名寄市立大学の窓から

知への誘い

vol.64

「人と人を繋げる気持ちの理解」

保健福祉学部

社会保育学科

教授

宮内

俊一



私が以前、勤務していた児童養護施設での出来事です。食事中、Aは好きなおかずをBから取り上げ、嫌いなおかずをBのお皿に入れていた。注意すると「うるせージイ消えろ」という。「うぜー」「きもい」「死ぬ」などの暴言が飛び交い、殴る蹴るなどの暴力行為、あちこちで始まるけんかで子どもたちが落ち着かず、生活が殺伐としていました。

分の情動をコントロールできず、ささいなことで突然キレル、暴力をふるうという方法でおさめようとする子どもたちに、子どもの衝動的・攻撃的行動をやわらげ、「暴力以外の方法で問題解決を図ることができるようにし、社会への適応力を高めることを目的とするものです。内容は次の3つからなっています。

①相互の理解

- ・自分の気持ちを感じる
- ・他者の気持ちを感じとる
- ・他者の立場に立つ
- ・思いやりを示す

②問題の解決

- ・気持ちを落ち着かせる
- ・どのようにすればうまくいくか、何ができるかを考える

③怒りの扱い

- ・怒りを自覚する
- ・怒りの感情をどう処理するかを学ぶ

ぬいぐるみやカードを使い、ある状況におかれた登場人物の気持ちをそれぞれ想像し、子どもたちに自由に発言してもらい、みんなで話し合いながら、問題を解決していくようにできています。

未就学児から中学生向け、その保護者向けのプログラムがあります。世界で30年の歴史と70カ国以上が導入している、日本では主に保育園、幼稚園、小学校、児童養護施設などで実践されています。最近では老人ホームで認知症のお年寄りに実践されるなど、さまざまな現場への広がりを見せています。北海道では、児童心理治療施設、少年院、高等養護学校でも実践されています。

全国の児童相談所が平成28年度に対応した児童虐待の件数(速報値)は、12万2

578件で過去最多を更新しました。北海道では4821件、名寄市では51件です。

虐待を受けた子どもたちは、コミュニケーションが苦手な、対人関係でトラブルを起こすことがあります。また現代社会は、テレビ、DVD、ゲームなど視覚的な刺激を与える商品の氾濫やパソコンやメール、スマートフォンなどの普及で、利便性が高くなった分、子どもたちからコミュニケーションのプロセスを取り去り、結果だけを大事にする風潮が見られます。このため、言葉を発達させる時間が失われ、直接的な対人関係をうまく結ぶスキルを身につけるきっかけを逸しています。

一方で、モデルとなるべき親や大人も、ソーシャルスキルを十分に身につける機会に恵まれなかったまま、社会生活を送っているのが実態です。

ぜひ、このセカンドステップを実施してみませんか。日本の将来を担う子どもたちの幸せを祈りつつ。

大学図書館へようこそ！

新年度が始まります。大学では新しい校舎「5号館」がオープンし、学生生活や授業のより一層の充実が期待できます。新入生約190人を迎え、図書館では展示などで大学生生活スタートアップを応援しています。

<<開館時間と休館のお知らせ>>

4月3日(火)まで 9:00~17:00

4日(水)から 9:00~21:00

※日曜・祝日は休館



◆問い合わせ

名寄市立大学図書館 ☎01654②4199(内線4201)

大学図書館にはこんな本があります

〜ソーシャルスキルに関する図書〜

- 『実践！ソーシャルスキル教育 幼稚園・保育園』
佐藤正二/編 図書文化社
- 『人とかかわり方を育てるスキルあそび45』
無藤隆/監修・指導 日本標準
- 『特別支援教育をサポートする 図解よくわかる
ソーシャルスキルトレーニング(SST)実例集』
岡田智ほか/著 ナツメ社
- 『友だち作りの科学 社会性に課題のある
思春期・青年期のためのSSTガイドブック』
エリザベス・A・ローガソン/著 金剛出版